

「道内の感染状況等について（道案）」に対する主な意見

1 有識者・専門家の意見

1-①

まん延防止等重点措置の延長を要請することはやむを得ない。

1-②

新規感染者の発生状況については減少の兆しも見られるが、病床使用率に減少傾向が見られず、医療提供体制の逼迫が懸念されることから、まん延防止等重点措置の継続を国に要請することについてやむを得ないと考える。

長引く感染症対策により、道内経済は大きな影響を受けており、とりわけ外国人技能実習生が活躍している地方においては、その影響が顕著となっている。感染対策の徹底と併せて、経済の活性化に必要な人材の確保に向けて、海外からの人材の受け入れに係るより柔軟な対応について、国に求めて頂きたい。

1-③

感染者数は低減傾向が見られるものの、60歳代以降の感染者の拡大、集団感染の相次ぐ発生など楽観できる状況ではない。

まん延防止等重点措置について、国に延長を要請するとの考えに異論なし。国には、感染防止対策の徹底と医療提供体制の強化に向けた自治体への支援を拡充するよう、引き続き求めていただきたい。

1-④

道案に異論なし。

高齢者施設でのクラスターが続いており、一度に、10人を超す陽性者が出るなど施設運営が不全に陥ることも想定され、病院への入院に時間がかかる状態になってきている。重症化リスクの高い人に医療の提供がスムーズに行われるようお願いする。

1-⑤

新規感染者数の高止まりと、全体的に陽性率が異常に高く、特に札幌市が高いため、まん延防止等重点措置の延長はやむを得ない。

3回目のワクチン接種がせめて全国平均に追いつけるように、札幌市を含めて、なお一層の取組の強化をお願いする。

1-⑥

ワクチンの接種時期について、新型オミクロン株の入院患者について2月に入ってから様相が一変し、高齢患者の急増、並びに重症患者が現れてきている。重症患者は昨年9月以来で、その方々は、ワクチンを打っていても半年以上経っているか、未接種であるため、高齢者、ハイリスク者の接種に傾注し、それがある程度済んでから小児接種を開始した方が良いのではないか。

1-⑦

道案に対し異存なし。

60代以上の感染割合が高くなってきているため、医療機関の病床がひっ迫しないよう注意が必要。3回目ワクチンと小児へのワクチン接種が円滑に行われるよう周知願いたい。

2 市町村・関係団体の意見

2-①

ワクチン接種を円滑に進めるため、4月以降の供給スケジュールを早急に示すよう、国へ伝えていただきたい。

2-②

これまでのまん延防止等重点措置の効果検証も踏まえて、経済活動とバランスをとった対応をお願いする。